

白

やまなし

治の風

特集
協働のまちづくり

巻頭随想

市町村リレー
まちづくり夢づくり

苦言提言

市町村の自主研究

がんばっていま～す。

電子自治体コーナー

3

Vol.29
March
2011

シリーズ ま・ち・自・慢 市川三郷町

Ichikawamisato Town



「四尾連湖」



市川三郷町長
久保 眞一

四尾連湖とその周辺は県立自然公園に指定されている。標高八五〇m、周囲二、二km、美しい緑に囲まれ、ひっそりとした静けさが漂う。鳥のさえずりやひんやりとした風が、青く澄んだ湖面を駆け抜ける神秘的な山上湖である。古くは富士八海(湖)廻りの二霊場であった。その美しさから「神秘麗湖」とも称されていた。その昔、千ばつの年には雨乞いの儀式が行われ、村人は湖の周りを何回も廻り雨乞いをしたという。湖畔にあった龍神堂は今もお堂の跡をとどめている。龍神伝説と自然と共に生きた人々の雨乞い伝説が偲ばれる。

空の青さや周囲の山々が彩る四季の姿が湖面に映える。時として俄かにガスに覆われる天候の変化は珍しくない。霧に包まれた四尾連湖は幻想的である。晴れた日の夕刻には、黄金色に染まる湖面を見ることもできる。

この地の人々の絆の強さと、人情の細やかさは他に例を見ないほどである。いま社会問題となっている「無縁社会」とは無縁の地であると思う。



お問い合わせ先

市川三郷町産業振興課

西八代郡市川三郷町上野2714-2

TEL:055-240-4157 FAX:055-240-4154

市川三郷町HP: <http://www.town.ichikawamisato.yamanashi.jp/>

白 治 の 風

やまなし Contents

まち自慢	市川三郷町	
巻頭随想	水を考える 忍野村長 天野康則	02
市町村リレー	山梨市	04
苦言提言	世界市場で通用するブランド力、マーケティング力を Koshu of Japan プロデューサー 小笠原 結花	08
特集「協働のまちづくり」		09
特集1 「協働のまちづくり」 「防災と協働」		10
特集2 「福祉と協働」		13
特集3 山梨市提案型協働のまちづくり支援制度の活用		16
特集4 協働で取り組むフットパスを通じたまちづくり		19
特集5 「協働のまちづくり」～新しい公共支援事業のご紹介～		23
市町村の自主研究		25
がんばっていま～す。		28
電子自治体コーナー		30
自治 Q & A		32
はつらつ!!市町村職員		34
市町村振興協会たより		36
時の人		

編集後記

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.29 March.2011



■表紙写真 人と自然が息づく街、上野原

上野原市は、首都圏から60キロ圏内に位置し、緑豊かな自然の中に桂川や鶴川、仲間川、秋山川など美しい流れのもと、多くの歴史や文化が育まれてきたまちです。

また、当市は、東西に走る甲州街道や中央自動車道など主要なルートを擁し、山梨県の東の玄関口として首都圏と甲府方面とを結ぶ交通の要衝にあり、JR中央本線の上野原駅、四方津駅、上野原インターチェンジや談合坂サービスエリアが生活・産業などの交流拠点となっています。

山々に囲まれ、河岸段丘により形成された台地の上には、上野原市民と豊かな自然が息づきます。【上野原市提供】

に、忍野八海附近は、今でも溶岩を少し深く掘れば透明な水が湧き出てきます。これは、富士山に降った雨や雪解け水が溶岩の下を流れ、外輪山に遮られ、堰き止められて、低い所へ溜まりそれが溶岩の間から湧き出る形を取っているものと思われまます。この豊富で、清く澄んだ水は、富士を見るとき前景となつて美しい景色を作り、この水を眺めているだけでも、藻類の動きもあつて、魅惑の世界へ引き込んでくれるものと思ひます。このことから、忍野八海が水環境の保全が極めて優良で、地域住民等による保全活動が認められ、昭和六十年、環境庁（現環境省）から名水百選に選定をされました。

人類の繁栄に、人間の営みに、また全ての生命体に無くてはならない命の根幹をなす水、その水の確保に先人は心血を注いでまいりました。

村民は農業を主体として生計を立てており、忍野地域における農業構造は、地域経済の貧困さの中で往時、コメに対する執着心は強く、稲作を志向しておりましたが、高冷地と稲作の限界地であり、冷害や水不足に悩まされて来ました。しかし、その後品種改良や栽培技術が急激に進み、さらには農業水路の整備、竣工によつてその収量は、山梨県の水準にまで及びました。

内野地区は、富士山溶岩台地上にあり、標高九六三メートル程で、水利

の便に恵まれず、僅かに井戸の掘削により飲料水を得て露命を繋いでおりました。一方、忍草地区は見渡す限り平坦なことから、元は湖沼に草木類が朽ちて堆積した湿原地帯でありました。このように村の歴史は水との闘いの歴史であり、連綿として今日に及ぶ、古くて新しい誠に重要な問題なのです。

申すまでもなく政治の基本理念は主権在民、すなわち民意の反映であり、今日、先達が克服するため奮闘し苦悩をした治山、治水を行うことはまた政治の原点ではないかと思うところです。

命を繋ぐ水。この水は、富士山の伏流水として長い年月を経て、富士裾野と御坂山脚との間の広い峡谷下（地下谷）を流れ、地層の亀裂箇所から噴水状の湧泉となつて地下水が湧出して水資源となつていゝのです。川や池塘・湖沼などから生活に必要な飲料水を得、畑に水を引き作物を育て、家畜を飼ひ、川魚やセリなどの水生生物を食膳に供してまいりました。

水はこのように飲料用水、水産用水、農業用水として利用され、限りない恩恵を与えた訳でございますが、



自然の浄化力の及ばぬ時代、水質汚濁の原因には、洪水やその他による自然的原因の場合と、人間の生活や生産活動の結果などによる人為的原因が考えられます。

いろいろなバランスの微妙に作用し合つた中で、存在する自然の諸体系に対して、長い間、軽率に加えてきた破壊を反省し、積極的にこの体系を崩さないように生活環境を整備していくことが必要ではないかと考えるものです。そうしなければ、生態学的災害に直面することを歴史から学び、肝に銘じておかなければならぬと思うからです。

まちづくり夢づくり

MACHIZUKURI YUMEZUKURI

29

山梨市

平成17年3月22日に山梨市、牧丘町、三富村が合併して誕生した新「山梨市」は、甲府盆地の東部に位置し、面積は289・87km²で県内第4位の広さを有しています。

地形的には、約8割を山林が占めており、笛吹川沿い南北につながり、北部は山岳・丘陵地帯、南部は笛吹川左岸に平坦地、右岸は平坦地から丘陵地帯が広がっています。

北部の秩父山系や西沢渓谷などは、秩父多摩甲斐国立公園内に属し、日本百名山の甲武信ヶ岳、山梨百名山の国師ヶ岳、乾徳山など2,000m級の山々が連なり、シーズン中は多くの登山客、ハイカーでにぎわっています。

基幹産業は農業で、特に、ぶどう、桃は日本有数の出荷量を誇っています。農業に関連した観光施設も多く、市内観光農園、笛吹川フルーツ公園や道の

駅には、果樹の収穫期ともなると、多くの観光客が訪れています。

本市では、合併後の平成18年度に、目指すべき将来像と基本的なまちづくりの方針を示し、市民やNPO、ボランティア、企業など様々な団体や組織と行政が、共通認識のもと、一体となったまちづくりを行うために「第一次山梨市総合計画」を策定しました。

計画では、「地域特性を生かした個性と魅力あるまちづくりの推進」、「交流と連携による一体感のあるまちづくりの推進」、「市民の視点に立った協働によるまちづくりの推進」を基本理念として、市の将来像「人・地域・自然が奏でる 和みのまち 山梨市」の実現を目標に、各種事業に取り組んでいます。計画策定から4年を経過しようとしています。これまでの、主な取組状況を紹介します。

「地域特性を生かした

個性と魅力あるまちづくり」

根津記念館

本市出身の著名人として代表的なのが、「鉄道王」と称され、日本の近代化に影響を与えた初代根津嘉一郎翁です。

根津翁は甲州財閥の一人であり、現在、建設中の東京スカイツリーの事業母体である東武鉄道の社長をはじめ、鉄道関係だけでも24社、生涯の中で経営に関わった企業は確認できるだけで136社もある実業家です。

また、広く事業を手掛ける傍ら、「社会から得た利益は社会に還元する」という信念のもと、県下全小学校へ200台にものぼるピアノや、ミシン、人体模型を寄贈し、市内を流れる笛吹



根津記念館

川に橋梁を架設するなど、郷里に多額の寄附を行いました。

本市では、根津翁の実家である旧居宅を、敷地・建造物ともご子孫から寄附を受け、まちづくり交付金事業などを活用し、地域の貴重な歴史・文化的資源である建物を後世に残すとともに、偉大な業績を多くの人に伝えていくと、「根津記念館」として整備し、平成20年10月に開館しました。

敷地内には、平成19年に国登録有形

文化財に登録された
主屋・長屋門・土蔵、
茶室を備えた青山
荘、根津翁の生涯を
紹介する常設展示室
と美術品などの企画
展示室を併設した展
示棟「八蔵」などがあ
ります。青山荘の南
側には、富士山や御
坂山塊を借景とした
庭園が広がり、大磯
の別荘から移植した
見事な黒松や池があ
ります。これらには、
自らが設計に関わり
た根津翁のこだわり
がみられます。

これまで、本市出身で映画「千と千尋の神隠し」の主題歌

「いつも何度でも」の作詞などで知られる作詞家、覚和歌子さんを招いた詩の朗読や歌の鑑賞会、市内在住の草絵創始者 妣田圭子さんの作品展をはじめ、節分、桃の節句、ホタル観賞会、七夕飾り、門松作り教室など、季節に即した様々なイベントを実施してきました。市内外から多くの方に来館していただき、開館から2年を経過した昨年9月には来館者10万人を達成しました。

「交流と連携による 一体感のあるまちづくり」 地域交流センター 街の駅やまなし

J R山梨市駅前に中心市街地の活性化や市民の交流、憩の場として、平成21年12月に「街の駅やまなし」がオープンしました。

この施設は、市民の憩いの場所、活動拠点、来訪者のエントランス、各種情報の発信基地など、多目的に活用できる施設として整備されたものです。施設には、会議室、展示スペースとして利用できる多目的コーナー、情報コーナーや、環境にやさしいペレットボイラーを活用した足湯があり、無料レン



街の駅やまなし

タサイクルも用意しています。

施設では、交流の場としてフリーマーケットなどの様々なイベントを毎月開催しており、昨年7月には、子どもたちに「ものづくり」の「大切さ」、「楽しさ」を感じてもらいながら、地域・世代を超えた交流の場をつくることを目的に、プラモデル作品展示会を実施しました。



プラモデルイベント

このイベントでは、地域の事業所やNPO法人等の協力によりプラモデル組み立て体験教室や、市内外から応募のあった215作品を展示し、「小学生の部」、「中学生の部」、「高校生の部」、「一般の部」のクラスごとに人気投票を行うなど、おおいに盛り上がりました。行政がプラモデルイベントを開催することは珍しく、行政・事業所・企業などが協働し、できることを持ち寄って実施したイベントの内容が評価され、昨年10月には、幕張メッセで開催さ

れた「2010第50回全日本模型ホビーショー」に自治体としては初めて出展をすることにになり、市の情報発信を行うことができました。

エコハウス やまなし

平成22年4月、街の駅やまなしの西側に、環境省の「21世紀環境共生住宅のモデル整備による建設促進事業」を活用した「エコハウスやまなし」が完成しました。

この事業は、増え続ける一般家庭からの二酸化炭素排出量を減らすために、環境への負荷を減らしつつ快適な暮らしを実現することのできる「21世紀環境共生型モデル住宅」を建築することで、建設関係者や住民に「エコハウスの良さを実感してもらい、普及を図ることを目的としています。

エコハウスは、太陽光発電やエコキュートの利用だけでなく、伝統的な様式である越屋根をはじめ、近くを流れる笛吹川からの自然な風を取り込む工夫や、夏の日射熱を遮るため、植木や



エコハウスやまなし

パーゴラで緑のカーテンを作り、断熱材には保温保湿性に富む羊毛材を使用しています。暖房器具は、間伐材から作ったペレットを燃料とするストーブを備えています。他にも、地産地消や輸送エネルギーの削減から、県産材の使用や、雨水利用のための水鉢に地元のワイン樽を使うなど、気候、風土、地域特性も考慮し、自然素材から環境に配慮したシステムまでを1つに集約した最新のモデル住宅になっています。

市では、エコハウスや隣接する街の駅やまなしで、間伐材を利用した木工



かのがわ古道・かのがわ広場

教室、古着を利用したエコバッグ、エコキャンドル、マイはし作り教室や、建築業者、家の建築・リフォームを考えている一般の方を対象としたエコハウス勉強会などを開催し、エコハウスを中

心に環境について学び、実践する取り組みが市民に浸透していくような活用を進めています。

「市民の視点に立った

協働によるまちづくり」

かのがわ古道・

かのがわ広場

厳しい財政状況の中、限られた財源で、まちづくりを効果的に進めていくためには、行政と住民が手を携え、協働により事業に取り組む必要があります。

本市では、まちづくり交付金事業を活用し、地域住民との協働により、「かのがわ古道・かのがわ広場」整備事業として、市内の下神内川（しもかのがわ）地域に、昭和初期の風景を思わせる古道を再現した約800mの道路と、水車小屋や休憩所を設けた広場、水路の水を民家の敷地内に引いて野菜や食器などを洗う「川端」などを復元・整備し、平成22年4月に完成しました。

この事業では、JR山梨市駅南に位置する下神内川2区の住民が駅南口の整備を含めた駅南のまちづくりを考えるため発足した、「まちづくりの会」が中心に立ち上げた「下神内川まちづくりプロジェクト」と、地域住民の積極的な協力が、事業を進める大きな原動力

となりました。

また、沿道の木堀、植栽の整備や、古道を中心とした地域の歴史をつづった冊子やガイドブックの発行、まち歩きイベントの開催、住民参加で行われた完成式典の開催などは、プロジェクトが主体となつて行われました。

このような、「かのがわ古道・かのがわ広場」整備事業は、行政と住民が協働で取り組んだ事業として、多方面から高い評価を受け、昨年9月に、下神内川2区と市が、「第3回国土交通大臣賞 循環のみち下水道賞」を、下神内川まちづくりプロジェクトの皆さんが、「平成22年度山梨県まちづくり功労者表彰」を受賞しました。

今後も、この取り組みを参考に、様々な分野において協働のまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

最後に

平成23年度は「第一次山梨市総合計画」の前期基本計画の最終年度にあたります。前期計画の進捗状況を確認しながら、新たな行政ニーズに対応できる後期基本計画の策定を進め、山梨市をさらに元気にしていくため、市の将来像「人・地域・自然が奏でる 和みのまち 山梨市」の実現に向けて様々な事業に取り組んでいきます。

苦言提言

Kugen Teigen

世界市場で通用するブランド力、マーケティング力を



Yuka Ogasawara
小笠原 結花

Koshu of Japan
プロデューサー

Koshu of Japan（以下KOJとする）は、2009年に

Japan Brandとして採択され、日本固有の葡萄品種である甲州種から造られる白ワインをEU各国でプロモーションする目的のもと発足いたしました。初年度は15社、今年度は14社のメンバーで構成されており、私はその組織のプロデューサーとして海外の関係者とのやり取りや調整を主に任ざれております。2010年1月に初めてのプロモーション活動をロンドンで行い、この1月に2度目のプロモーション活動を行ってまいりました。ワインのプロモーションでなぜ英国?と思われる方もいらっしゃるでしょう。実は世界のワイン情報の約70%は英国発信といわれており、英国市場で認められてこそ、ワインとして、産地として世界で認められるといわれているのです。世界のワイン流通の中心地である英国はもちろん非常に競争の厳しい市場で、そこへ参入することにはかなりの労力やリスクが伴います。しかし、その厳しい世界で市場を得ることは将来の

山梨のワイン産業の行く末を左右する大きな意義のあることと確信しています。

この市場でビジネスを始めるにあたり、KOJメンバーのワイナリーは、ワインの品質はもちろん、商品の価値をいかに的確に市場に認知してもらうか、つまりブランドینگ、そして市場活動のあり方、つまりマーケティングを見直すことが要求されています。

ブランドینگは、ラベルや栓を含めたパッケージング、カタログやパンフレットやWEBなどのプロモーションツール・広告などのメディアへの露出など、商品の価値を市場で表現するための作業すべてに関連します。自分の商品をどこで、いつ、誰に消費してもらいたいかわかなイメージを持ち、それを商品の価値に繋がるあらゆる箇所へ徹底させること。ワイン業界ではブランドとはTrustでできるもの、つまり、信頼できるものという意味を持ちます。一貫性のあるブランドینگを行い、消費者からの信頼を得ることができ商品が、世界市場の競争で生き残るこ

とができるのです。

UKのインポーターと商談が始まり、価格交渉やどのように輸送するのかなど問題をクリアし、やっとUKへの輸出が開始する、ここまでで二苦勞ですが、この先のマーケティングはさらに重要な作業となります。UKのインポーターに卸す、これは国内で言えば、例えば、東京の卸問屋へ卸すようなものです。通常、この時点で会社の売り上げと計上し、その先を追うことはないでしょう。しかしこれと同じ事をUK市場で行えば、よほど運が良くない限り市場で生き残ることは難しいといわれています。取引先であるインポーターと常にコミュニケーションが取れる環境を作り、どの店へどのくらいの頻度でどのくらいの本数出ているのか定期的に確かな数字を追う。それまでのブランドینگが市場で適切な評価を受けているかを確認する。問題が発生した時や市場の嗜好の変化にいち早く対応する。自社の商品の消費の末端までを知ることにより初めてその後の確かなプロモーションを

行うことができるのです。

世界市場においてのワインビジネスの話をしました。本来、日本市場も世界市場の一部です。ワインに関していえば、国内市場は、ワイン消費の大半は輸入ワインが占めています。世界市場で通用するブランド力、マーケティング力を身につければ、山梨県産のワインは国内市場でも世界各国からのワインに十分対抗できるはず。そして、これはワイン産業だけではなく他の産業や業種でもいえます。山梨にはワイン以外に、宝石、果実など農産物、畜産物、繊維織物、そして観光などの地場産業がありますが、同様のものは世界中から日本に輸入されており、市場に氾濫しています。また、同じ産業を地場産業としている県は他にもたくさんあります。それらとどこで差をつけ、いかに消費者に選んでいただくか、世界市場の中の日本という観点を持ち、あらゆる角度から見直すことが必要です。